

---

# いつかはきっと立派な魔法使い

豪腕

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いつかはきつと立派な魔法使い

### 【Nコード】

N1594Z

### 【作者名】

豪腕

### 【あらすじ】

『妖精女王』エルザ・スカーレットにはまだ幼い一人の弟子が居た。名前はレイズ・スカーレット、師匠みたいな凄く強くて立派な魔法使いになるために今日も修行を頑張ります。

## 第一話 物語の始まり（前書き）

さて、これからがんばろう！



そしてしばらくすると声は完全にしなくなった。

「はあはあはあ、死ぬかと思った……………」

両手と両足を地面に付けて頂垂れて涙を流す僕

「あの程度の魔物に泣くとは情けないぞ、レイズ」

そんな僕に空から真つ赤な髪をした女性が舞い降りてきて声を掛け  
てきた

その姿を見た僕は

「ふえええん、師匠ううう」

思わず抱きついてしまった。

「あんなの無理ですよお、まだ僕つては師匠みたいに換装が早くで  
きないし、武器も鎧も全然ないんですよお」

泣きつく僕を見下ろしてくる。

しかも無表情と来たものだ。

「……………い」

「え？」

「そんな泣き顔も可愛いぞレイズ！」

「痛っ！」

なんか知らないけども抱きついてきた。

でも、鎧にぶつかったので痛かった。

「ははは、すまなかったなレイズ。確かに私もまだ早いとは思ったが……ほら言うだろう『可愛い子には旅をさせよ』と」

「随分と危険な旅でしたよ!？」

旅って言うか、むしろ自殺に近い行為だった。

「まあ、なにはともあれ倒したのだ。帰ろうじゃないか」

倒した魔物を村に運ぶために専用の荷馬車に乗せて、師匠は僕の手を引きながら村への帰路へと着くのであった。

これが僕、レイズ・スカーレットの日常

師匠みたいな凄い人になるために日々、修行中です。

## 第一話 物語の始まり（後書き）

えっと、エルザってこんな感じで良いんでしょうか？

違和感などを感じられたら感想にてご報告をください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1594z/>

---

いつかはきっと立派な魔法使い

2011年12月5日20時11分発行